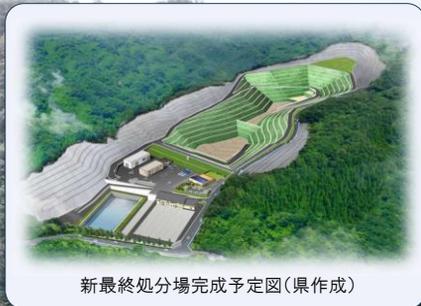


暦の上では晩秋となり、吹く風が涼しくなってきました。街や山の木々も段々と色付き、季節の移り変わりを感じます。工事現場では、近くの堆積場から盛土の材料を運搬する仮設道路工事が始まりました。また、安全な工事の実施のために、施工方法などを検討するワーキンググループを開催しましたので、お知らせいたします。



新最終処分場完成予定図(県作成)



R6.10.1 ドローンで撮影

盛土材を運搬する仮設道路工事を開始

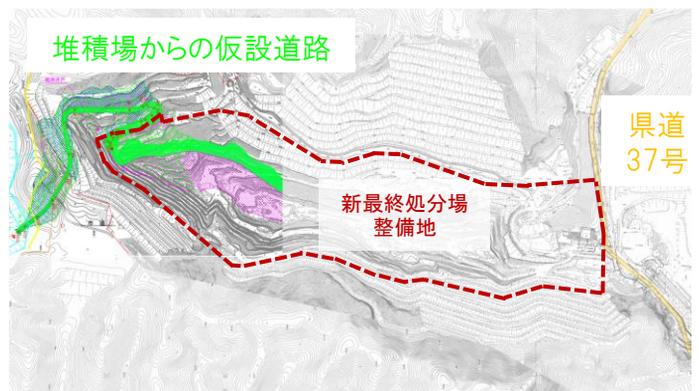
処分場の南側にある堆積場から、盛土の材料となるズリを運搬するための仮設道路工事を開始しました。

仮設道路は、アーティキュレートダンプと呼ばれる大型のトラックが往来するため、最大15m幅の道路を計画しています。

なお、仮設道路工事を進めている場所の一部では、発破と呼ばれる爆薬を使用した岩盤の掘削作業を実施しています。

この作業を実施する際には、発破による騒音・振動をできるだけ少なくするために、爆薬の量を調整するとともに、作業箇所を飛散・騒音防止用シートで覆うなど、周辺環境に配慮した工事を行っています。

また、現場作業員の一時退避や周辺に警戒員を配置するなど、安全に配慮しています。



アーティキュレートダンプ

【お問い合わせについて】

担当：一般財団法人 茨城県環境保全事業団 新最終処分場整備日立事務所

電話：0294-33-8731 E-mail: seibi@ef-kasama.or.jp

その他：工事に関するお知らせは、茨城県環境保全事業団のホームページ(<https://ef-kasama.or.jp/newfacility/info>)又は二次元コードからご確認いただけます。



施工管理ワーキンググループを開催

安全な処分場を建設するため、早稲田大学の小峯教授を座長とし、有識者、茨城県、事業団で構成するワーキンググループを10月5日(土)に開催し、工事の施工方法などについて検討を行いました。詳細については、事業団のホームページに掲載しています。

ワーキンググループ開催の様子

処分場の敷地造成の方法や浸出水処理施設周辺の擁壁構造の変更について、技術面、安全面、費用など、多角的な視点から検討を行いました。その後、現地視察を行い、盛土工事の進捗状況などを確認しました。



ワーキンググループでの検討事項

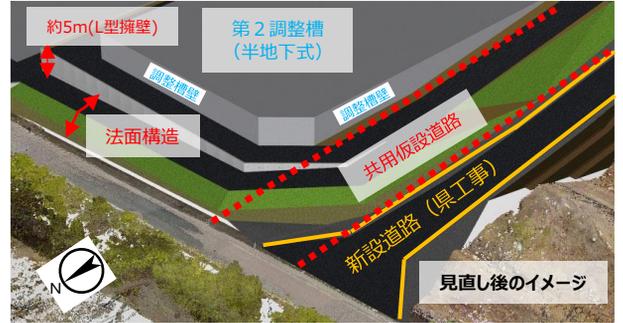
① 処分場の敷地造成の方法の検討

処分場の敷地造成では、堆積場のズリを盛土の材料として活用することや搬入された廃棄物の荷重が加わることを考慮し、最適な工事の施工方法や品質管理の方法について検討を行いました。



② 浸出水処理施設周辺の擁壁構造の変更

新設道路工事との共用仮設道路の設置による工事の円滑化や交差点での安全性向上などの観点から、当初設計していた高さ約10mの擁壁構造を低くするなどの見直しを行いました。



処分場建設工事中の環境モニタリング

● 大気質(8月測定)

工事の影響はほとんどなく、全ての地点で環境基準未達でした。

● 騒音・振動(8月測定)

工事の影響はほとんどなく、全ての地点で環境基準未達でした。

● 水質(8月測定)

工事の影響はほとんどなく、すべての測定項目で基準未達でした。

● 地下水(8月測定)

工事の影響はほとんどないことを確認しました。

環境モニタリングの詳細な結果は、事業団のホームページで公開しています。



処分場建設工事中の環境モニタリング結果



処分場建設工事中の環境モニタリング実施地点

編集記

今号も「事業団からのお知らせ」をお読みいただき、誠にありがとうございます。私どもは、この広報誌で、処分場や建設工事に詳しくない方にも、工事の内容や現場の状況を分かりやすくお伝えしたいと考えております。今後も処分場建設工事に係わる様々な情報を分かりやすくお伝えできるように努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。